

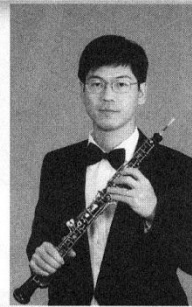
# 演奏に役立つ One Point Lesson

# O B O E

オーボエ

## 息(支え)について、もう少し考えてみよう

福田淳 ふくだ・きよし



- ◆出身 岡山県作陽高校、京都市立芸術大学・大学院
- ◆所属 大阪市音楽団、アンサンブルダンツィ大阪
- ◆趣味 自然の中でのんびり過ごすこと
- ◆血液型 B型
- ◆星座 みずがめ座
- ◆読者にひとこと 自然体、「ありのまま」でいきましょう
- ◆手紙の送り先 kiyoshi-fukuda@di.pdx.ne.jp

こんにちは。このページを読んでいる、オーボエを吹き始めたみなさんは、もしかしたら「オーボエの話がなかなか出てこないなあ」と待ち遠しく思っているかもしれません。ですが、ここで解説していることは、音楽をするうえで最も大事なことで、演奏の基礎となつて着実な上達を支えるものです。どうかもう少しおつきあいいただけますでしょうか。

### [1-⑥] 息(支え)について (前号より続く)

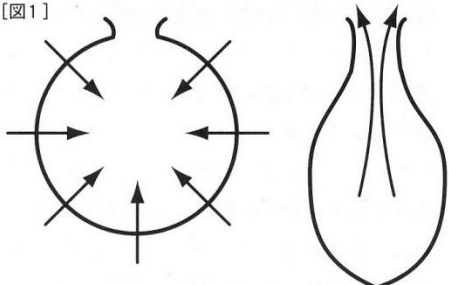
さて、ここで考えてください。「ハー」と声を出そうとしたとき、吸った息は、のどがふさがっていないので、口が開いた箱のような状態で保たれ、中の空気は外へ勝手に出ていきませんね。

もし「支えた」ときに圧力(空気圧)がかかるのなら、息を吸って「支えた」状態のときに、勝手に中の空気が出ていってしまうことになるはずですが、どうですか、「支えと息の圧力は無関係」ですね!

みなさんが「空気圧が…」と言っているのは、実は「息が保たれた状態」(息が出も入りもしない、ゼロの状態)から息を出し始めて、楽器の発音体が反応(振動)するのに必要な空気圧のことなのです。

ところで、「支え」について、どうイメージすればよいのでしょうか? ここまでわかっているのは、「ゴム風船のようなもの」に空気が入っても、(口をふさがなくても)「箱のような状態」になっていて、中の空気が出ていかない、この状態を「支えている」とい

[図1]



ゴム風船は常に縮もうとしている

フタをしないと中の空気が出てしばむ

うことです。

ゴム風船は、空気が入った状態では、常に球の表面全体から中心に向かって縮もうとする性質がありますが(【図1】)、ここでいう「箱のような状態」とは、中心から表面全体に向けて「縮まないでおこうとする力」を働かせて、「縮もうとする力と、縮まないでおこうとする力のバランスをとっている」状態のことなのです(【図2】)。言い換えると、「壁がせばまらないように、腕で支えている」ようなイメージを想像してもいいかもしれません(【図3】)。

このときの「内(中心)から外へ向かって縮まないようにして与えているエネルギー」や、その状態を「支えている」と言うのです。

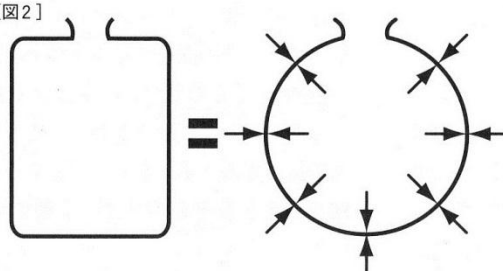
この「支えと圧力は別次元である」ことを理解しておくのは、演奏をするにあたって重要です。

### [1-⑦] 音の重さと支え、および「息」について

「支えている」とは、「あくびをして息を吸った状態」だとか「差し出した手のひらに物を載せたとき」と同じだと言いましたが、今度はそのときの「音の重さと、支えと、息の関係」について考えてみましょう。

たとえば、重たい物を持ったとき、どんな声になりますか? 大事なことを話すとき、どんな声になりますか? また、感情のこもった優しい声を出そうとしたとき、「支え」はどんな感じになりますか? 気のない、適当

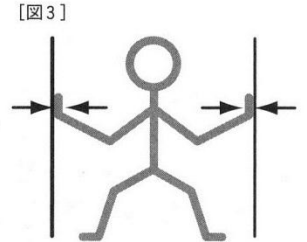
[図2]



中の空気が出もしない入りもしない「箱のような状態」

縮む力と縮まない力のバランスがとれている

[図3]



壁がせばまらないように腕で支える

な声を出したときはどんな感じですか? これらに「音の重さと、支えと、息の関係」があります。

重たい物を持ったときには、「支え」はそれに見合って増えて、「重たそうな物を持ったような声」がします。重要で念を押すような声を出すときも、「支え」を増して「重たい声」を出しています。

ここで「重要」という文字に注目してください。これは「大事なこと」を意味しますが、そこに使われている文字は「重い」「要(かなめ)」ですね。漢字というものは意味をよく表しているものであり、実際、大事なことを伝えるときには「重さを持った」声で相手に伝えているのです。もちろんこのときに「支え」が増しているのは当然です。あるいは、優しい声を出そうとしたときは、息をたくさん出さないために、「支え」を増しています。

上記を整理してみましょう。

- 「支え」のない息ほど、気のない軽々しい声になる
- 支えるほど息に深みや重さが加わり、説得力のある声になる
- 丁寧に歌うときも、安易な息を出さないの「支え」が増す

これらから、「重さが増せば、支えも増して、息は減る」と言えます(具体的な相関図は後述の第2章で説明します)。

お待たせしました、次号はオーボエの構え方とアンブシュアについて話します。